

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F128310108703	設置等組織名	理工学部（環境・エネルギー工学科）
大学名	甲南大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	兵庫県	事業計画名	既存学部における学科の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		1-① 令和5年7月 検討体制の整備 1-② 令和5年9月 先端研究社会実装シンポジウムでのヒアリング 1-③ 令和5年12月 設置方針の策定 1-④ 令和6年3月まで 設置構想・方針に関する企業等との事前協議及び地域ニーズの調査の実施と構想の具体化 1-⑤ 令和6年9月まで 学習目標等の具体化とカリキュラムの編成・構築、教員体制の整備、入試制度の設計 1-⑥ 令和6年10月 新学科設置にかかる文部科学省事前相談 新学科に関する入学意向調査及び当該分野の人材需要調査の実施 1-⑦ 令和7年3月 新学科設置申請 1-⑧ 令和8年3月まで 新学科学生募集・入試実施	1-① 令和5年7月 検討体制の整備 1-② 令和5年9月 先端研究社会実装シンポジウムでのヒアリング 1-③ 令和5年12月 設置方針の策定 1-④ 令和6年3月まで 設置構想・方針に関する企業等との事前協議及び地域ニーズの調査の実施と構想の具体化 1-⑤ 令和6年9月まで 学習目標等の具体化とカリキュラムの編成・構築、教員体制の整備、入試制度の設計 1-⑥ 令和6年10月 新学科設置にかかる文部科学省事前相談（11月12日） 新学科に関する入学意向調査及び当該分野の人材需要調査の実施 1-⑦ 令和7年3月 新学科設置申請 【改組内容】 ・令和5年 理工学部環境・エネルギー工学科において、当初、入学定員を40名とし、他の学部・学科の入学定員を10名減じ、大学全体の入学定員を30名純増する計画であったが、その後の検討により、他の学部・学科の入学定員を40名減じ、大学全体の入学定員を増減なしとする計画に変更。これに伴い、令和7年3月の新学科設置申請を、令和7年4月の新学科設置届出に変更。	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 理工学部環境・エネルギー工学科において、当初、入学定員を40名とし、他の学部・学科の入学定員を10名減じ、大学全体の入学定員を30名純増する計画であったが、その後の検討により、他の学部・学科の入学定員を40名減じ、大学全体の入学定員を増減なしとする計画に変更する。これに伴い、令和7年3月の新学科設置申請を、令和7年4月の新学科設置届出に変更する。
	フェーズ2 前倒し			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
認可申請又は届出		令和7年4月 理工学部環境・エネルギー工学科 学科の設置届出予定	令和7年4月 理工学部環境・エネルギー工学科 学科の設置届出		
フェーズ2	フェーズ1 後倒し		1-⑧ 令和8年3月まで 新学科学生募集・入試実施	○年度自己評価	リストから選択してください。
		2-① 令和5年度 新棟建設にかかる法定調査 2-② 令和6年度 既存校舎解体工事 2-③ 令和7年度 新任教員採用に伴う環境整備 2-④ 令和8年度 新学科の実験・教育・研究設備を備えた新棟建設 2-⑤ 令和9年度 新棟利用開始		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和8年4月 理工学部環境・エネルギー工学科開設予定（入学定員40名、工学関係・理学関係）			
フェーズ3	フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
		3-① 令和8年度 新学科開設、導入教育の実施、短期留学プログラムの参加促進 3-② 令和9年度 専門分野に関する基礎教育の実施 3-③ 令和10年度 在籍学生に対する進路希望調査と進路開拓 3-④ 令和11年度 企業等と連携したPBL型科目の導入、リサーチフェスタ※等での研究成果発表、大学院の整備 なお、女子学生確保、地域の初等中等教育段階の学校との連携及び内部質保証活動は毎年度実施 ※リサーチフェスタとは、文系・理系を問わず、高校生と大学生、大学院生が自分たちの「研究」や「調査」「活動」について発表、議論する、甲南大学独自のイベント		○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止		令和7年4月 経済学部経済学科10人減員に係る届出予定（入学定員335人、経済学関係） 令和8年度 経済学部経済学科10人減員予定（同上） 令和7年4月 経営学部経営学科10人減員に係る届出予定（入学定員335人、経済学関係） 令和8年度 経営学部経営学科10人減員予定（同上） 令和8年4月 理工学部物理科学学生募集停止の報告予定（入学定員50人、工学関係・理学関係） 令和8年度 理工学部物理科学学生募集停止の予定（同上） 令和8年4月 理工学部機能分子化学科学生募集停止の報告予定（入学定員60人、工学関係・理学関係） 令和8年度 理工学部機能分子化学科学生募集停止の予定（同上）	令和7年4月 経済学部経済学科10人減員に係る届出（入学定員335人、経済学関係） 令和7年4月 経営学部経営学科10人減員に係る届出（入学定員335人、経済学関係）	○年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	甲南大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	甲南大学
-------------	-------	-----	------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■

 チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和 5 年 4 月 13 日文科科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■

 チェック

⑭

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■

 チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐

 チェック

b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐

 チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
教学アドバイザー・ボード構成員など産業界で活躍する本学卒業生の企業、本学と共同研究を実施している企業や地元企業等と連携したPBL型科目について、当該企業から講師を招いて、本学専任教員と共同で担当することを計画している。これらのPBL型科目に関する教育体制ついては、上述した新学科設置の検討体制における議論を通して、フェーズ1 期間内に具体化して行く。 また、実践的な外国語活用能力の育成を目的として、本学の国際交流センターが提供し、他学部において実績のある短期留学プログラム（エリアスタディーズ、オンライン留学など）に、希望する学生が参加できるようにすることも含め、体系的なカリキュラムの編成・構築をフェーズ1 期間中に行っていく計画である。	教学アドバイザー・ボード構成員など産業界で活躍する本学卒業生の企業、本学と共同研究を実施している企業や地元企業等と連携したPBL型科目について、当該企業から講師を招いて、本学専任教員と共同で担当することを計画している。このPBL科目については、いくつかの企業関係者に相談を行い、協力の意思をお伺いしている。また、実践的な外国語活用能力の育成を目的として、本学の国際交流センターが提供している短期留学プログラム（エリアスタディーズ）に、希望する学生が参加できるようにしたカリキュラムを検討中である。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐

 チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐

 チェック

d.社会人学生の実入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐

 チェック

e.留学生の実入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生確保及び志願者数増に向けた取組として、本学の理工学部、知能情報学部、フロンティアサイエンス学部と協調して、特定の女子校を主な対象とした学部見学会や学修体験会等を令和4年度から実施している。これらの取組を継続するとともに、共学校に在籍している女子学生に対しても、その枠を広げていくことを計画している。また、地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）に関しては、出張授業等の要望があった中学・高校に対して積極的に行っているほか、夏休みには、「理工学部一日科学体験」と題して、高校生を対象に先端的な科学実験の体験学習を行っている。さらに、系列校である甲南高等学校・中学校に対して、9月の土曜日に理工学部の施設見学及び大学での教育・研究を体験する催しを行っているほか、神戸市東灘区役所と連携して、夏休み期間中に小学校高学年を対象とする「東灘キッズ・サイエンス」を開催し、理科に特化した親子での体験学習を行っている。	女子学生確保及び志願者数増に向けた取組として、本学の理工学部、知能情報学部、フロンティアサイエンス学部と協調して、特定の女子校を主な対象とした学部見学会や学修体験会等を令和4年度から実施しており、取組を継続している。また、令和7年度入試より、公募制推薦入試【女子特別推薦型】を理系学部・学科において、実施予定であり、実績を踏まえて、理工学部環境・エネルギー工学科においても検討を行う。地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）に関しては、令和5年8月4日に高校生を対象とした「理工学部一日科学体験」を実施した。また、系列校である甲南高等学校・中学校に対して、10月28日に理工学部の施設見学及び大学での教育・研究を体験する催しを実施した。また、神戸市東灘区役所と連携して、8月22日に「東灘キッズ・サイエンス」を開催し、小学生に向けて理科に特化した体験学習を行った。これらの他、「総合的な探究活動の時間」に関連して出張講義などを51件行った。以上の取組みにおいては、理工学部環境・エネルギー工学科所属予定の教員も参画しており、多様な入学者の確保につなげる計画である。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	甲南大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	甲南大学
-------------	-------	-----	------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	■ チェック

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和 5 年 4 月13日文科科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	■ チェック

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック

□ チェック

□ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）
- | 申請時の計画 | 取組実績、進捗状況 | 課題（理由）とその対応 |
|--|--|-------------|
| 教学アドバイザリー・ボード構成員など産業界で活躍する本学卒業生の企業、本学と共同研究を実施している企業や地元企業等と連携したPBL型科目について、当該企業から講師を招いて、本学専任教員と共同で担当することを計画している。これらのPBL型科目に関する教育体制ついては、上述した新学科設置の検討体制における議論を通して、フェーズ1 期間内に具体化して行く。 また、実践的な外国語活用能力の育成を目的として、本学の国際交流センターが提供し、他学部において実績のある短期留学プログラム（エリアスタディーズ、オンライン留学など）に、希望する学生が参加できるようにすることも含め、体系的なカリキュラムの編成・構築をフェーズ1 期間中に行っていく計画である。 | 教学アドバイザリー・ボード構成員など産業界で活躍する本学卒業生の企業、本学と共同研究を実施している企業や地元企業等と連携したPBL型科目について、当該企業から講師を招いて、本学基幹教員と共同で担当することを計画している。このPBL科目については、協力の意向を示してくださった企業関係者との打ち合わせを行っている状況である。また、希望する学生は、国際交流センターが提供している短期留学プログラムに参加できる形のカリキュラムを策定し、本学科の設置届出書類（令和7年4月提出）にも記載した。 | |
- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック

■ チェック

■ チェック

□ チェック

□ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生確保及び志願者数増に向けた取組として、本学の理工学部、知能情報学部、フロンティアサイエンス学部と協調して、特定の女子校を主な対象とした学部見学会や学修体験会等を令和4年度から実施している。これらの取組を継続するとともに、共学校に在籍している女子学生に対しても、その枠を広げていくことを計画している。また、地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）に関しては、出張授業等の要望があった中学・高校に対して積極的に行っているほか、夏休みには、「理工学部一日科学体験」と題して、高校生を対象に先端的な科学実験の体験学習を行っている。さらに、系列校である甲南高等学校・中学校に対して、9月の土曜日に理工学部の施設見学及び大学での教育・研究を体験する催しを行っているほか、神戸市東灘区役所と連携して、夏休み期間中に小学校高学年を対象とする「東灘キッズ・サイエンス」を開催し、理科に特化した親子での体験学習を行っている。	女子学生確保及び志願者数増に向けた取組として、本学の理工学部、知能情報学部、フロンティアサイエンス学部と協調して、特定の女子校を主な対象とした学部見学会や学修体験会等を令和4年度から実施しており、取組を継続している。具体的には、理系女子向け体験実験として、「甲南大学で「理系の楽しさ」を体験する理系女子プログラム」を中学生・高校生向けに、7月31日～8月7日にかけて理系3学部で実施。また、環境・エネルギー工学科において、公募制推薦入試【女子特別推薦型】ならびに甲南女子高等学校と協定を結び、高大連携協定校推薦入学【理工学部・知能情報学部・フロンティアサイエンス学部】を令和7年度入試より実施する。本入試制度は、本学科の設置届出書類（令和7年4月提出）にも記載している。 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）に関しては、令和6年8月2日に高校生を対象とした「理工学部一日科学体験」を実施した。また、系列校である甲南高等学校・中学校の中学3年生を対象に、7月13日（高校2年生に対しても10月26日）に、滝川第二高等学校・中学校の中学2年生を対象に、7月26日に体験イベントを実施理工学部の施設見学及び大学での教育・研究を体験する催しを実施した。また、7月21日に御影クラッセのイベント「クラッセキッズワークLAB」で、小学生・中学生を対象にワークショップや、8月21日に「東灘キッズ・サイエンス」を神戸市東灘区役所と連携して開催し、小学生に向けて理科に特化した体験学習を実施。この他にも、「総合的な探究活動の時間」に関連して出張講義などを54件行った。 以上の取組みは、環境・エネルギー工学科所属予定の教員も参画しており、多様な入学者の確保につなげる計画である。	

大学名	甲南大学
-----	------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	甲南大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1940	1940	1940																
		入学者数	人	2256	2116	2139																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,940	1,940	1,940																
		入学者数(B)	人	2,256	2,116	2,139																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.16	1.09	1.10																
	収容定員等	収容定員(C)	人	7760	7760	7760																
		編入学定員	人	***	***	***																
		在籍者数(D)	人	8851	8924	8955																
		編入学者数	人	***	***	***																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.14	1.15	1.15																

4.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況		選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定			開設			完成年度							
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	382,109	378,616	341,730	423,108	463,569	457,043	527,696												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間にける各年度の外部資金獲得 額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の 平均）（E）	千円	394,611
本事業による助成金の額(F)	千円	351,250
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 （E+F×2.5%）	千円	403,392

特記事項